

⇒p.30 ~ p.31

- 1 エ
- 2 ア
- 3 ウ
- 4 X (例) 牧場・牧草地の割合が高い Y 羊
- 5 ウ

解説

- 1 ア…人口密度は、人口÷面積で求める。ブラジルは211050(千人)÷8516(千km²)=24.7…で約25人/km²。イタリアは60550(千人)÷302(千km²)=200.4…で約200人/km²。したがって、ブラジルのほうが、人口密度が低い。しかし、イタリアの人口の5倍は3億人以上になるので、ブラジルの人口はイタリアの人口の5倍以下である。よって、誤り。
- イ…日本の人口は、126860(千人)÷60550(千人)=2.0…で、イタリアの2倍以上である。しかし、日本の面積は378千km²、イタリアの面積は302千km²なので、日本の面積のほうが大きい。よって、誤り。
- ウ…ブラジルの面積は、8516(千km²)÷378(千km²)=22.5…で、日本の面積の20倍以上である。しかし、ブラジルの人口は211050千人で、日本の126860千人より多い。よって、誤り。
- エ…日本の人口密度は、126860(千人)÷378(千km²)=335.60…で、約336人/km²。したがって、イタリアやブラジルより高い。よって、正しい。
- 2 インダス川はパキスタン、ガンジス川はインド東部を流れる大河。資料を見ると、稲作地域は、インド東部から西部の沿岸部にかけての年降水量1000mmの線よりも降水量が多い地域に広がっている。この地域は、季節風(モンスーン)の影響で雨が降る。インド西部からパキスタンにかけては、降水量の少ない乾燥帯の気候。稲作には十分な水と気温が高くなる必要があるため、降水量の少ない地域では、小麦の栽培が行われている。インドは、米・小麦の生産量が、いずれも世界上位である。
- 3 ヨーロッパ連合(EU)では、加盟国間の輸出入には関税がかからないため、域内での貿易がさかんである。スイスはヨーロッパの国であるが、永世中立の立場からEUには加盟していない。
- ア…輸出全体にしめる日本の割合は、2006年は562(億ドル)÷45496(億ドル)×100=1.2…、2017年は684(億ドル)÷59095(億ドル)×100=

1.1…で、いずれも2%を超えていないので、正しい。

イ…輸出全体にしめるEU加盟国の割合は、2006年は30742(億ドル)÷45496(億ドル)×100=67.5…、2017年は37752(億ドル)÷59095(億ドル)×100=63.8…で、いずれも6割を超えているので、正しい。

ウ…スイスは1,118億ドルから1,710億ドルになったので、約1.5倍。中国は802億ドルから2,235億ドルになったので約2.8倍。したがって、増加の割合は中国のほうが大きいので、誤り。中国は、急速に経済発展が進み、貿易額も増加した。

エ…アメリカ合衆国の輸出額は、3,383億ドルから4,247億ドルになったので、4247-3383=864億ドル、864÷3383×100=25.5%…で、増加の割合は25%以上である。よって、正しい。

4 X 「牧場・牧草地の割合が高い」ということが書けていればよい。資料1から、ニュージーランドの農地面積の大部分は牧場・牧草地であり、日本の農地面積の大部分は耕地・樹園地であることが読み取れる。

Y 資料2から、ニュージーランドでは、羊の飼育頭数が27,527千頭で、日本の15千頭の約1,835倍であることが読み取れる。ニュージーランドでは、人口より羊の家畜頭数のほうが多い。ニュージーランドの羊毛の生産量は、中国、オーストラリアとともに世界有数、輸出量も多い。また、羊の中には肉用のものもあり、羊肉の生産量も世界有数である。

5 ア…2000年のボーキサイトの生産量の世界合計は13,600万t、2016年は27,000万tなので、2倍未満で誤り。また、アルミニウムは、2000年が2,430万t、2016年が5,860万tで、約2.4倍なので、誤り。

イ…ボーキサイトについては正しいが、アルミニウムについては、オーストラリアの生産量が世界合計にしめる割合は、2000年が7.3%、2016年が2.8%で、25%以上ではないので誤り。

ウ…2016年の中国のアルミニウムの生産量は、5860(万t)×0.544=3187.84万t、2000年は2430(万t)×0.115=279.45万tなので、約11.4倍になっている。よって、正しい。

エ…2016年のインドのボーキサイト生産量が世界合計にしめる割合は8.8%と、10%以上ではないので、誤り。